

第5回 福山市学校教育環境検討委員会 次第

日時 2025年（令和7年）8月4日（月）

18時30分から

場所 福山市市民参画センター 5階 会議室1

1 教育長あいさつ

2 報告・説明

第4回検討委員会の概要

3 諮問事項についての協議

○これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について

○新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

○学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

4 その他

○次回（第6回）学校教育環境検討委員会

【日時】2025年（令和7年）9月1日（月）18：30～

【場所】福山市役所 3階 大会議室

第4回検討委員会の概要

第4回 福山市学校教育環境検討委員会 概要

【日時】 2025年（令和7年）7月7日（月） 18:30～20:40

【場所】 市役所本庁舎3階 大会議室

【出欠】 出席18人 欠席1人

◎委員長、○副委員長

出	◎伊澤 幸洋	福山市立大学教育学部教授	出	橋本 秀基	福山市公立小学校長会会長
出	森 美智代	福山市立大学教育学部教授	出	新谷 陽子	福山市公立中学校長会
出	○佐々木 伸子	安田女子大学理工学部 建築学科教授	出	土利川 佳保	福山市保育施設保護者会 連合会会長
出	山岡 英樹	福山市自治会連合会副会長 兼事務局長	出	小鼓 悠	福山市私立幼稚園PTA連合会
出	久保 辰己	福山市自治会連合会副会長	欠	菅田 雅夫	福山商工会議所副会頭
出	高杉 清志	福山市連合民生・児童委員 協議会副会長	出	金山 節津	市民公募
出	佐藤 正	福山市交流館長会幹事	出	亀山 マリエ	市民公募
出	三木 智恵	福山市PTA連合会副会長	出	佐藤 有香	市民公募
出	藤原 磨香	福山市PTA連合会松永北 ブロック協議会会長	出	花谷 忠厚	市民公募
出	阿部 勉	福山市PTA連合会			

【概要】

- 1 教育長あいさつ
- 2 福山市教育環境検討委員会委員紹介 異動者
- 3 報告・説明
第3回検討委員会の概要及び補足説明
- 4 諮問事項についての協議
これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について
新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について
学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について
- 5 その他

委員から出された主な意見

■学力について

- ・義務教育学校を推進していく上で、学力も付いているということを、数値で示すことはできないか。
- ・数値で測れるものだけが、学力ではない。数値は、授業改善や教員の授業力向上につなげるものである。こどもの姿に現れる学力をしっかりとみていく必要がある。
- ・学校では、全国学力・学習状況調査の結果をどう使うかを考えている。小中一貫教育の中で小中学校の教員が一緒に取り組んでおり、誤答分析を行い、間違えた要因やどこでつまづいているかを分析し、授業改善を行っている。
- ・学習指導要領に示されている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質能力をバランスよく育てていく必要がある。福山市のこどもたちは、意欲や自己肯定感などは高いが、教科学力に課題がある。学力調査を活用し、授業改善や個に応じた支援を行い、社会に通用する真の学力を付けていけるよう取り組んでいく。
- ・PTA役員だから見える学校の頑張りや地域の支援がある。学力も含め、今後導入するコミュニティ・スクールにおいて学校の取組を支えられるよう備えていきたい。

第4回検討委員会の概要

- ・従来型の学力は、A Iなどの技術で補填していけないのではないか。自己肯定感や人間力などがこれからの社会ではより必要になる。
- ・どの学校が何に力を入れているか、学校運営方針を保護者が知ることができる機会を作り、それを基に学校を選択することができるようになればいい。
- ・義務教育学校の推進の方向性を見定める上で、学力をポジティブに捉えられないかという議論であったが、学校現場では、学力を3つの資質能力として捉え、学力調査の結果を活用し、建設的に、日々の授業改善を通した学力向上に取り組んでいることが共有できた。

■学校施設の在り方について

- ・近年の酷暑を踏まえ、空調設備の整備を検討いただきたい。授業や学校行事など、教育活動に影響が出ている。小学校校長にとったアンケートでは、未設置の特別教室（家庭科室、図工室）や体育館への空調設備を望む意見が、一番多かった。
- ・空調は必要だが、暑くても、安全に外遊びができるようにする工夫も必要である。
- ・オーストラリアの学校の校庭には、日除けのシェードなどを設置して、外で遊べるように工夫している事例がある。
- ・バンコクの日本人学校では、中庭に幌を設置し、地面には芝生を敷いて、暑さを軽減していた。
- ・学校敷地の状況によっては、こどもたちが屋外の日陰で活動できる空間を作れるのではないかな。
- ・断熱化・遮熱化などエネルギーの効率化の視点を持ち、環境配慮型の施設づくりに取り組む必要がある。
- ・多様な学習者の存在を認め、受け止められる空間を用意する必要がある。昨年度、福山市の学校で、特別支援の通級指導と不登校支援を同じ空間を使うように整備し、実践しているところである。
- ・教員が働きたくなる環境整備が必要である。教員同士が情報交換できる空間をつくり、コミュニケーションを図りながら教員が育ち合っていけるようにしていくことが大切である。

■コミュニティ・スクール（CS）について

- ・常石ともに学園では、水泳の見守りなど、教員をフォローできるよう、保護者が連携している。学校にちょっと手伝いに行くという思いで、それぞれができることをしている。
- ・大阪府守口市のさつき学園では、「さつきフレンド」とよぶ支援が組織化しており、学校がボランティア活動の場になっている。学校と地域がWinWinの関係構築できればよい。
- ・城西中学校区は、コミュニティ・スクールを導入したばかりで、何をしていくかはこれからである。地域ごとに資源は様々であり、モデル的な取組があれば参考にしたい。
- ・学校運営協議会では学校評価も行うが、委員として、的確な評価と教員の負担軽減のため、評価項目はポイントを絞り、シンプルに記載してほしいと意見を述べた。また、山野地域では、積極的に教育活動にかかわろうと学習支援会をたちあげ、地域学習・体験学習を支援しており、素晴らしい。
- ・コミュニティ・スクールの取組を地域に広げていくために、CSの委員に自治会が入る方が望ましい。周知や取組の充実のためには、アウトプットが重要である。
- ・こども真ん中社会と言うが、民生児童委員を長年して、学校とのつながりが以前より薄くなったと実感している。学校からの情報が入りにくい。地域には様々な団体があり、互いにできることはあるので、連携していきたい。
- ・企業の参画も、こどもたちの教育活動の充実のためには必要である。
- ・水呑小学校では、学校と地域とのハードルを下げ、経験やスキル、趣味などを活かし、地域の方々に学校運営や教育活動にどんどん関わってほしいと考えながら、次年度導入に向けて準備をしている。

第4回検討委員会の概要

■これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方についての答申の骨子について

- ・少子化が進む中、こどもたちが多様な人間関係の中で育ち合うことのできる一定の集団規模が必要であること、義務教育学校を学校再編の一つの選択肢とし、整備を推進していくことを検討委員会として答申していく（確認）。
- ・義務教育学校の整備の基本的な考えとして、現中学校区を基本に検討することとし、どの中学校区を対象に、どの時期に行うべきかについては、今後の人口動態や地域事情を踏まえる中で検討する（確認）。
- ・義務教育学校の整備にあたり、大規模な中学校区は分割整備をする、小規模な中学校区は地理的条件を考慮し整備を検討するなど、柔軟に考える必要がある。
- ・過小規模校の解消のため、隣接する学校との再編（小学校同士、中学校同士の再編）も検討する必要がある。
- ・地域バランスを考えながら、小規模校の選択もできるようになればよいと思う。

まとめ

- ・義務教育学校の推進を答申していく上で、学力向上の視点で議論を行い、学習指導要領に示されている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質能力をバランスよく育てていくことが必要であることを共有した。
- ・学校施設の在り方として、近年の酷暑を踏まえ、未設置の特別教室や体育館への空調設備が求められている。また、校庭への日除けのシェード設置など、暑くても屋外で活動できる環境整備の検討も必要である。
- ・環境配慮型の建物、多様な学習者の視点での空間づくり、教員が働きたくなる環境整備などをキーワードに、これからの施設整備を検討する。
- ・コミュニティ・スクールの取組を通じて、地域・学校・家庭・企業が協議し、連携しながら、こどもたちの豊かな学びと成長を支える「地域とともにある学校づくり」の仕組みを構築することが重要である。
- ・今後の学校再編の在り方についての答申の骨子については、学校再編による一定の集団規模の必要性、過小規模校の解消並びに適正規模（各学年2～3学級）の義務教育学校の整備の推進という基本的な考えを、委員会として確認した。
- ・義務教育学校の整備にあたっては、中学校区での分割整備や、地理的条件を考慮した小規模校整備など、柔軟に検討する必要がある。

答申の骨子（案）

1 福山市立小・中・義務教育学校の現状と課題

- | | |
|--------------------|---------------|
| ① 児童生徒数の現状と将来推計 | ⑥ 教師の現状 |
| ② 学校規模の現状と将来推計 | ⑦ コミュニティ・スクール |
| ③ 学校施設の現状と課題 | ⑧ 義務教育学校の特色 |
| ④ これまでの学校再編の取組 | ⑨ 福山市のめざす教育 |
| ⑤ 特別な支援が必要な児童生徒の状況 | |

2 【諮問事項1】これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について

①学校再編（一定の集団規模）の必要性

- ・これまでの学校再編の成果、再編後の学校でこどもたちが成長していく姿から、学校教育環境には、こどもが多様な人間関係の中で学び合い、育ち合うことのできる一定の集団規模が必要である。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進のためには、一定の集団規模が必要である。
- ・今後も、過小規模校（現基本方針における第1要件該当校 小学校1～5学級、中学校1～3学級かつ全ての学級で1学級あたりの人数が19人以下）については、複式学級の解消等のため、小学校同士、中学校同士の学校再編に取り組む必要がある。

●望ましい学校規模（現基本方針における適正規模）

小学校 12学級から18学級まで（各学年2・3学級）

中学校 9学級から12学級まで（各学年3・4学級）

②義務教育学校の整備の推進

- ・義務教育学校の特色、本市の2校の義務教育学校の取組を踏まえ、学校再編の一つの選択肢として、義務教育学校の整備の可能性を検討する。再編後の学校規模、既存施設の老朽度、敷地面積、地域バランスなど、総合的に検討し、優先順位をつけ、整備を推進していく。
- ・義務教育学校は、現中学校区を単位とすることを基本とし、各学年2から3学級まで（学校教育法施行規則で定める標準学級数）を適正規模とする。
- ・義務教育学校の整備にあたっては、現中学校区の規模が適正規模を超えるときは、校区を分割して整備することを検討する。
- ・現中学校区での義務教育学校の規模が各学年1学級であっても、隣接する中学校区との再編が困難であるなど、学校の実状や地理的条件を勘案し、柔軟に検討することが必要である。

③義務教育学校の整備を進めるにあたって、考慮すべきこと

- ・義務教育学校の取組の情報発信、良い取組の普及、教職員間研修
- ・学校再編を繰り返すことにならないよう、将来を見据えた取組
- ・スクールバス・タクシーなど、通学手段の確保（通学時間は1時間以内）

④多様な学びの場の充実

- ・イエナプラン教育校や特認校など特色ある取組の推進

答申の骨子（案）

3 【諮問事項2】新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

- ①柔軟で創造的な教育活動が展開できる学習空間が求められる。
- ②家庭・地域、企業との共創空間が求められる。
- ③セキュリティやプライバシーへの配慮が必要である。
- ④体育館や未整備の特別教室への空調整備、校庭への日除けのシェード設置など屋外でも活動できる環境整備が必要である。
- ⑤学校の実態を踏まえ、トイレの洋式化・乾式化もさらに進めていく必要がある。
- ⑥環境配慮型の施設整備に取り組む必要がある。
- ⑦多様な学習者の視点での空間づくり（不登校、通級指導、外国人児童生徒など）、教員が働きたくなる環境整備（コミュニケーションスペース）が必要である。
- ⑧長期的に適正規模を維持する学校については、施設の長寿命化改修または建替えを行う際に、交流館や就学前施設など、他の公共施設との複合化も検討し推進する。
- ⑨学校再編計画を踏まえる中で、その他の学校整備についても、既存施設の老朽度や地域バランス、予算規模を考慮しながら、計画的に進めていく必要がある。

4 【諮問事項3】学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

- ①コミュニティ・スクールの取組を通じて、地域・学校・家庭・企業が協議し、連携しながら、こどもたちの豊かな学びと成長を支える「地域とともにある学校づくり」の仕組みを構築することが重要である。
- ②コミュニティ・スクールの取組を推進するにあたって、考慮すべきこと
 - ・既に導入している校区・学校の良い取組の普及
 - ・コミュニティ・スクールに関わる人の輪を広げていくための、各校区・学校の取組の情報発信、地域の人材バンクや組織づくり
 - ・学校運営協議会と地域の各団体との連携強化

5 その他

- ・全ての学校において、学習指導要領に示されている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質能力をバランスよく育んでいくことが必要である。